

## 下馬尾滝沢(仮称)

1987年8月2日

Lf

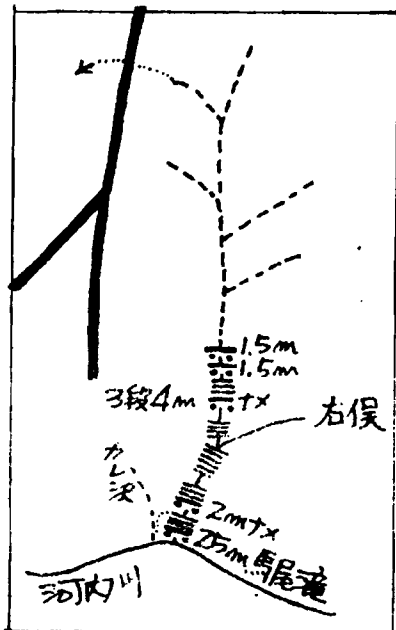
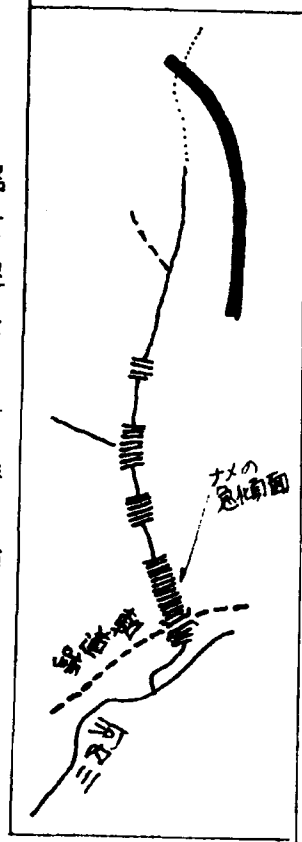
馬尾滝沢(仮称)左俣の遡行終了後、1本下流の下馬尾滝沢(仮称)の下降に移る。源頭は、ササが密生していて歩きづらい。沢に降り立ってもヤブがひどく、何度か足をすくわれる。沢を降りるというよりは、ヤブの上を歩くという感じである。

やがて、所々、川床にナメが現れるようになるが、すぐにヤブに覆われてしまう。悪戦苦闘の末、1時間半程で、ようやくヤブこぎから開放される。

ここから河内川本流は、もうすぐである。長い急傾面のナメ床を慎重に降り、軌道跡の橋をくぐりぬけると、沢は平坦となって、蛇行してから河内川に合流する。

(記・

[タイム] 下降開始(9:05)→下降終了(10:45)→河内川橋(10:55)



## 馬尾滝沢左俣(仮称)

1987年8月2日

Lf

河内川橋に車をデポし、本流にそって遡行を開始する。30分程で馬尾滝沢(仮称)出合に到着する。馬尾滝沢は、出合に馬尾滝をかけている。25m程のナメ滝。傾斜はきつく、直登はちょっときびしい。私達は、右岸にあるカレ沢を利用して捲くことにする。途中、だいぶ前に使用されていたと思われる貯水槽があり、上部からワイヤーでもって固定してある。ワイヤーにそってガレ場を登りつめ、馬尾滝の上に出る。

ここから少し遡ると、二俣となる。右俣に入

る大西君たちと別れて、私達は左俣へ。左俣に入っすぐの3段4mのナメ滝を越し、続く小滝2つを越すと、水はカレてしまった。この先は伏流となって、ゴ一歩きとなってしまふ。

遡行開始後1時間とたたないうちに、沢は源頭の様相を見せる。右岸のカレ沢を利用して、ヤブこぎ開始。15分程で尾根に出る。 (記)

[タイム] 河内川橋(7:10)→馬尾滝沢出合(7:45)→二俣(8:00)→遡行終了(8:35)  
→尾根(8:50)

### 馬尾滝沢(仮称)右俣 1987年8月2日 L

河内川橋から30分程で馬尾滝沢(仮称)出合。この出合にかかるのが、30mの馬尾滝。二万五千分の一地図で唯一滝名が記載されているものである。シャワーで中央突破を試みるが、途中よりあきらめて右岸ブッシュに取り付く。水が冷たい。後々その理由がわかる。

25分で二俣となる。和泉さんたちのパーティと別れて、我々は右俣へ進む。

右俣に入って5分、6mの滝が行く手をふさいだ。直登は無理なので、左岸のブッシュを利用して登る。登って驚き。滝の落ち口に岩の割れ目があり、水は湧水となって落ちている。そしてその上流はチョロチョロ。これで水の冷たい理由がわかった。

それより30分くらいでヤブがかぶさってくる。8:35遡行終了として右手の尾根めざしてヤブをこぐ。

(記)

[タイム] 河内川橋(7:05)→馬尾滝(7:35)→二俣(8:00)→遡行終了(8:35)

